

出資法人等「経営改革計画評価表」

1. 団体の基礎情報(平成22年4月1日現在)									
団体名	財団法人うつのみや文化創造財団 (旧うつのみや文化の森)			設立年月	平成21年4月(平成6年10月)				
所在地	宇都宮市明保野町7-66 (宇都宮市長岡町1077)			代表者	理事長 伊藤 文雄				
ホームページアドレス				市所管課	教育委員会 文化課				
基本財産(資本金)	110,000千円			主な出資者	出資額		出資割合		
市出資額	110,000千円			—	—		—		
市出資割合	100.0%			—	—		—		
設立目的等	幅広い文化芸術事業を展開するとともに、市民の多様な文化活動を支援することにより、地域文化の振興と魅力ある市民文化の創造に寄与することを目的とする。								
2. 団体の組織・人員情報(平成22年4月1日現在)									
役員数	役員数	理事	1	1	0	13	0	計	14
		監事	0	0	0	2	0		2
	職員数		37(1)	3(1)	0	14(1)	0		51(2)
	計		37(1)	3(1)	0	28(1)	0	合計	65(2)
常勤		うち市OB	うち市派遣等	非常勤		うち市OB			
常勤役員の平均年齢(歳)		62	常勤役員の平均年収(千円)		5,751	常勤職員の削減数(対19年度当初比)		1人	
常勤職員の平均年齢(歳)		51	常勤職員の平均年収(千円)		7,060	常勤職員の削減率(対19年度当初比)		4.2%	
評議員会の有無		有	包括外部監査の対象の有無		有	議会への報告の有無		有	
情報公開制度の有無		有	個人情報保護体制の有無		有				
3. 経営改革に関するこれまでの取組(平成16~18年度の3年間の主なもの)									
<p>平成16年度 財団法人うつのみや文化の森改善計画の策定</p> <p>平成17年度 学校への出前講座「トビダス美術館」, 「アートトークインカフェ」など館外で行う教育普及事業の開始</p> <p>平成18年度 宇都宮美術館及びうつのみや文化の森への指定管理者制度導入, 館外での広報(営業)活動の強化, 企画展観覧料割引券の発行</p>									
4. 経営改革計画の取組結果等(平成22年4月1日現在)									
No	改革項目	改革目標	取組結果(19~21年度)						
1	公益事業比率(支出ベース)の向上	21年度末 63%	19年度末 54.1% 20年度末 57.6% 21年度末 53.6%(財団全体の割合61.5%) (国の公益法人制度改革を踏まえ、平成20年度決算から算出方式を変更)						
2	鑑賞事業(コレクション展, 企画展)の経営	平成21年度末 観覧者数100,000人 収支率27%	19年度:観覧者実数 78,095人, 収支率28.2% 20年度:観覧者実数 81,174人, 収支率29.0% 21年度:観覧者実数 91,681人, 収支率62.5% 【参考】 18年度:観覧者実数 89,222人, 収支率25%						
3	基金事業の経営	助成金や基金に積極的に申請を行う。隔年で1事業の採択を目指す。	20年度:文化庁「芸術拠点形成事業」に採択。【小中学生による学校所蔵品再発見プロジェクト『Re+Collections』】を実施。(助成額3,768千円) 21年度:(財)花王芸術・科学財団助成金に企画展「杉浦非水の眼と手」が採択。(助成額1,000千円)						
4	公園での(有料)事業の実施(公園事業の活性化)	平成21年度末、年度1回の実施	21年度 子どもフェスタin文化の森2009(来場者1,500人/無料)						

No	改革項目	改革目標	取組結果(19~21年度)
5	貸館事業の充実	平成21年度末 講義室利用率30%	19年度:16.3% 20年度:6.6%【貸出可能日(開館日)287日・貸出日19日】 21年度:7.5%【開館日282日のうち貸出可能日255日・貸出日19日】 (20年度以降貸出率が大幅に減少したのは、19年度まで講義室で毎週水曜・土曜・日曜・祝日に開催していたハイビジョン講座を、20年度以降、講義室ハイビジョンシステムが不調で開催できなかったため講義室の貸し出し可能日が大幅に増えたためである。今後ハイビジョン講座を続けるためには、講義室に新たにデジタルハイビジョン対応のシステムの導入が必要である。) 【参考】 18年度:講義室利用率15.0%
6	教育普及事業の充実	21年度 40事業, 参加者数3,000人	19年度 42事業, 参加者数2,854人 20年度 71事業, 参加者数4,974人 21年度 50事業, 参加者数5,453人 この他に、ギャラリートーク(約900人), 団体解説・バックヤードツアー等(107団体/3,011人)を適宜開催 【参考】 18年度:33事業, 参加者数2,644人
7	ボランティア活動の充実	21年度ボランティア登録数100人	19年度 71人 ⇒20年度 81人 21年度 81人 作品解説472回, 市街地でのポスター配布7回, 美術館広報案内発送7回, 事業補助10回, 新聞掲載記事等の資料整理13回
8	財団統合による新事業	文化会館展示室を活用したサテライトギャラリーの実施 観覧者2,000人	21年度 ①サテライト美術館(12日間, 観覧者764人/場所:市民ギャラリー) ②文化会館との協同事業 企画展「栄光のルネサンスから華麗なロココ」に関連したミュージアムコンサート5回(参加者550人)
9	開館時間の見直し	延長を含めた開館時間の見直し	20年度:企画展「わたしが選んだいわさきちひろ展」会期中の金・土曜日(11日間)に19時まで開館時間延長 21年度:企画展「白樺派の愛した美術」会期中の金・土曜日(12日間)に19時まで開館時間延長
10	市財政負担額の削減①(補助金)	21年度末 10%削減	19年度 16,613千円 20年度 10,713千円(前年比△40.8%) 21年度 財団統合により交付なし(前年比△100%) 【参考】 18年度:18,102千円
11	市財政負担額の削減②(委託料・指定管理料)	21年度末 3%削減	19年度 427,284千円 20年度 435,569千円(前年比5.5%増) 21年度 443,336千円(前年比1.8%増) 【参考】 18年度:450,766千円
12	美術館事業収入の増収(観覧料等収入)	平成21年度末 5%増	19年度 30,697千円 20年度 33,692千円(前年比8.3%増) 21年度 18,306千円(前年比△45.7%) 【参考】 18年度:31,121千円
13	「友の会」入場料収入の増収	平成21年度末 50%増	19年度 1,079千円 20年度 1,333千円(会員数 個人479人, 法人26口) 21年度 1,162千円(会員数 個人408人, 法人27口) 【参考】 18年度:(友の会発足は19年度)
14	団体の常勤役員数の削減(市派遣等は除く)	21年度 13人体制	20年度末 13人体制
15	理事会の活性化(民間理事の登用率)	平成21年度 67%	19年度:22% 20年度:22% 21年4月財団統合 【参考】 18年度:22%
16	評議員会の活性化	平成21年度までに実施	21年4月財団統合

No	改革項目	改革目標	取組結果(19~21年度)
17	職員数・給与情報等の公開	ホームページでの公開実施	役員名簿や財務状況等については、ホームページ等で適宜情報公開している。
18	館外教育普及活動等の結果報告の公開	ホームページでの公開実施	ホームページ等で適宜情報公開している。

※平均年齢と平均年収の計算に当たっては、市からの派遣職員等は除いています。

5. 財務状況						
項目	単位	平成18年度 (決算)	平成19年度 (決算)	平成20年度 (決算)	平成21年度 (決算)	
I. 貸借対照表						
A 資産合計(①+②)	千円	356,039	312,684	373,056	392,139	
①流動資産	千円	114,765	48,757	79,312	76,505	
②固定資産	千円	241,274	263,927	293,744	315,634	
B 負債合計(③+④)	千円	130,338	61,585	101,799	93,819	
③流動負債	千円	105,188	32,362	68,013	56,922	
④固定負債	千円	25,150	29,223	33,786	36,897	
うち有利子負債	千円	0	0	0	0	
うち損失補償契約に係る債務残高	千円	0	0	0	0	
C 負債及び正味財産の合計(B+⑤)	千円	356,039	312,684	373,056	392,139	
うち正味財産(⑤)	千円	225,701	251,099	271,257	298,320	
II. 収支計算書						
D 収入合計(⑥+⑨)	千円	507,095	502,772	513,240	491,819	
⑥事業収入	千円	31,265	30,807	33,764	18,409	
⑦事業外収入	千円	475,830	455,311	456,053	456,211	
⑧当期収入合計(⑥+⑦)	千円	507,095	486,118	489,817	474,620	
⑨前期繰越収支差額	千円	0	16,654	23,423	17,199	
【補足項目】⑩収入合計に占める市財政負担額	千円	468,868	443,897	446,282	443,336	
うち補助負担金	千円	18,102	16,613	10,713	0	
平成18年度ベースの補助負担金	千円	18,102	16,613	10,713	0	
新たに増加した補助負担金	千円		0	0	0	
補助負担金の削減率(対18年度比)	%		△ 8.2	△ 40.8	△ 100.0	
うち委託料(指定管理料を含む。)	千円	450,766	427,284	435,569	443,336	
平成18年度ベースの委託料	千円	450,766	427,284	435,569	443,336	
新たに増加した委託料	千円		0	0	0	
委託料の削減率(対18年度比)	%		△ 5.2	△ 3.4	△ 1.6	
E 支出合計(=⑪+⑭+⑮)	千円	485,104	479,349	496,041	483,474	
⑪事業支出	千円	286,472	259,163	269,101	258,926	
うち自主事業支出(⑫)	千円	0	0	0	0	
うち公益事業支出(⑬)	千円	286,472	259,163	269,101	258,926	
⑭管理費支出	千円	198,632	190,305	195,396	177,703	
⑮その他の支出	千円	0	29,881	31,544	46,845	
【補足項目】⑯支出合計に占める人件費総額	千円	155,669	155,818	124,882	110,426	
F 当期収支差額(⑧-E)	千円	21,991	6,769	-6,224	-8,854	
G 次期繰越収支差額(D-E)	千円	21,991	23,423	17,199	8,345	
III 財務指標						
収支比率(⑧/E)	%	104.5%	101.4%	98.7%	98.2%	
自主事業比率(⑫/⑪)	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
公益事業比率(⑬/E)	%	59.1%	54.1%	57.6%	53.6%	
市財政負担比率(⑩/D)	%	92.5%	88.3%	87.0%	90.1%	
人件費比率(⑯/E)	%	32.1%	32.5%	25.2%	22.8%	
6. 団体の評価・今後の課題						
【評価】						
平成21年度は観覧者数が5万7千人余と、前年より30パーセント減。観覧料収入も前年費45パーセント減となった。原因としては、「リーマンショック」等世界的な経済不況が上げられる。全国の中核都市の美術館や、当館と同規模美術館でも平均25パーセントの観覧者減が報告されている。さらに市民のニーズに応える企画展を揃えることが出来なかったことが原因である。そのなかで地域との連携をはかる「子どもフェスタ」の開催や、過去3年間を通じて「トビダス美術館」が充実するなど教育普及事業は多くの成果を挙げている。						
【今後の課題】						
まず市民のニーズに応えられる展覧会の開催。特に人気のある日本画の企画展、夏休みに親子対象の企画展を開催するなどが課題である。また多彩な事業展開を図っていくために、職員の適正人員を目指す。地域や学校および地元企業との連携を図る事業の充実を進め、市民に身近な美術館を目指す。さらに文化会館との協働事業を充実させ、財団統合の成果を形にし、財団一丸となって「公益財団法人」への認定取得を目指す。						

7. 所管部局の評価・今後の課題

【評価】

平成21年4月に宇都宮市文化会館管理公社と財団統合したこと機に、両財団の擁する舞台芸術と美術を融合した事業として、企画展「栄光のルネサンスから華麗なロココ」開催期間中に、チェンバロの演奏会「ミュージアムコンサート」を開催したほか、新しい試みとして市民ギャラリーにおいて「サテライト美術館」を開催した。また、文化の森を利用し、美術館友の会や地元自治会等とともに子どもフェスタを開催するなど、積極的な事業展開を行っている。観覧者数は改革目標を下回ったことから、利用者のニーズを的確に把握していく必要がある。

【今後の課題】

利用者ニーズを的確に把握するとともに、より効果的な広報活動を行うことにより、企画展やコレクション展の観覧者数を増やすことが必要である。また、更なる地域文化の振興と魅力ある市民文化の創造に寄与するため、公益財団法人への認定取得を目指す必要がある。

※ 公益事業費率については、国の公益法人制度改革を踏まえ、平成20年度決算分から算出方式を変更しています。